

孤高の景観 ～日向の^{ひむか}残照^{ざんしょう}編～

この秋、私は再び極限の淵に立っていた。古人骨と対話したあの日から一年。今度の相手は、骨ではなく「景観」だ。目に見えない歴史の空気感をどう展示室に閉じ込めるか。それこそが今回の私のミッションである。

思えば、古墳景観の真なる価値とは現地に立ってこそ得られるものだ。西都原をはじめとした南九州の台地に立ち、風を受け、巨大な墳丘を見上げる。その圧倒的な体験に勝る展示など、本来あり得ない。しかし、世の中には様々な制約で現地へ足を運べない人々がいる。私は悩んだ……。

ならば、その「美しき一瞬」を博物館まで持ってくるしかない。

私は地元の写真家、黒木一明氏のもとへ走った。彼が捉えた「日向の残照」は、もはや写真という枠を超えた歴史の吐息そのものだ。その写真を、私は著名な某写真雑誌のレイアウトを徹底的に研究し、図録、そして展示室へと落とし込んだ。副館長をはじめとする学芸員一同、限界ギリギリまで突き詰めたデザインは、もはや芸術の域に達していると言っている。



完成した展示室を見ながら、私は思った。

「ああ、良いじゃないか。南九州の台地の風が、今ここで吹いている……。僕たちは皆、何かを失いながら生きている。でも、この台地に注がれる残照を眺めている間だけは、失われたものが別の形をとって戻ってくるような、不思議な予感に満たされる……。」

いかん。少しノーベル文学賞候補の文豪を意識しすぎたか。

しかし、この感覚が少しでも来館された方々に伝われば……と思う。



館全体に日本遺産の価値を表現した今回の展示。まさに「孤高の^{しつら}設え」となった。

古代人が台地に描いた祈りの形。その「残照」を絶やすことなく、より鮮やかな光として次世代に手渡していくこと。それが、悠久の時間が流れる日向の地で、歴史と共に生きる私たちが辿り着いた、ひとつの結びである。

皆さんもこの機会に是非、当館にご来館いただき、そして、できるなら、古墳群各地に足をお運びいただき、日向の残照を感じていただきたい。

(沖野 誠)



宮崎県立西都原考古博物館 令和8年度特別展

日向の残照

～日本遺産「南国宮崎の古墳景観」～



国指定特別史跡 西都原古墳群(西都市)

Photo by KAZ, KUROKI



生目5号墳(生目古墳群/宮崎市)



古墳祭り(西都原古墳群/西都市)



百足塚古墳(新田原古墳群/新富町)



高鍋大師(持田古墳群/高鍋町)

2026[令和8年]

10. 10 SAT 12. 13 SUN

■主催:宮崎県立西都原考古博物館

■共催:宮崎市 西都市 新富町 高鍋町

日本遺産南国宮崎の古墳景観活用協議会

観覧無料

【関連シンポジウム】

開催日 2026年10月25日(日)

会場 西都原考古博物館1階ホール

第1部:午後1時30分～2時10分まで 2市2町首長によるシンポジウム

第2部:午後2時30分～4時00分まで 文化財担当者の日本遺産説明

宮崎県立西都原考古博物館

Saitobaru Archaeological Museum of Miyazaki Prefecture

〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅5670番
TEL.0983-41-0041 FAX.0983-41-0051
<https://saito-muse.pref.miyazaki.jp>

開館時間:9:30～17:30(展示室入室は17:00まで)

休館日:月曜日(国民の祝日と重なる時は最も近い平日)
国民の祝日の翌日(休日に当たるときを除く)

